

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄
<http://schit.net/tama/jhtamanagayama/>

我、新しき天と地を見たり

校長 佐藤 信雄

この言葉は、新しい天と地が創造され、新しい時代が始まることを意味したもので、『新約聖書』の「ヨハネの黙示録」第21章の冒頭にある文言だそうです。「だそうです」と申したのは、私がこの言葉を知ったのが聖書からではないためです。私とこの言葉との出会いは、昔々、私が小学校一年生の頃のことでした。テレビで観た映画『地球最後の日』（1951年米国映画）にひどく感動した私は、本屋でその原作である本を見つけ、母にねだって買ってもらったのです。タイトルは映画と同じく『地球最後の日』（原本は1933年 フィリップ・ワイリー&エドウィン・パーマー）でした。私が手にした本は、当時、講談社から出ていた少年少女講談社文庫の1冊でした。小学1年生には少し早いと言えるシリーズでしたが、私は同シリーズの『恐竜を求めて』（ロイ・C・アンドリュース）なども喜んで読んでいたので、手に取りやすかったということもあります。（ちなみに『恐竜を求めて』は小説ではなく、ゴビ砂漠を探検し恐竜の卵の化石を人類で初めて発掘した事例に基づく、ノンフィクションです。とても興味深く読めますよ。）

作品のあらすじを簡単にご紹介します。巨大な星が2つ、宇宙の彼方から地球に近づいてくるのが分かりました。観測の結果、近いうちに地球と衝突する恐れがあることを知った科学者は世界に向けて警鐘を鳴らしますが、世界は取り合いませんでした。そうした中でも協力を申し出てきた人々と協力して、科学者は人間が脱出できるロケット宇宙船の建造に取り掛かり、「ノアの箱舟号」と名付けられます。幾多の困難のなか建造が進みますが、星の接近による大規模自然災害の続発と、恐怖と不安に駆られた人間の暴動などから、社会は大混乱となります。やがて科学者は2隻目のロケット宇宙船の建造を宣言し、その名前を作業員などから公募するといいます。こうして希望に燃える人々でしたが、ある夜、暴徒と化した人間たちが基地を襲ってきます。防衛に当たっていた若い作業員の一人は暴徒の銃撃を受け、「僕の言葉じゃないけど、『我、新しい天と地を見たり』。僕の言葉じゃないけど…」と言い残して亡くなります。科学者の息子はその言葉を胸に、新天地を目指す新宇宙船の建造のために取り組み続けました。やがて…。というお話です。結末は読んでからの、映画を見てからの楽しみということ。

さて、皆さんは新年を迎えて、今どんな気持ちでいますか？ 年が明けて10日近くたちましたから、新鮮さも薄れてしまったでしょうか？

私たちの暮らしている世界は、年が明けても、特に何かが新しくなるわけではありません。天も地も、昨年と同じく変わらない天と地です。けれどどうでしょう、新年の朝、初めて家の外に出て見上げた空に、眺めた町に、新鮮さを感じませんでしたか？ どこか空気が新鮮な気がしませんでしたか？ 家の中がそれまでとは違ったような気がしませんでしたか？ 新しい歳を迎えるためにと、大掃除をし、片付けをし、正月の飾りをしつらえ、お節料理を並べ、テレビは正月番組が流れる。もうこれだけで、昨年までとは違う雰囲気を感じませんでしたか？ そして町にはちらほら晴れ着の人たちがいたり、門松やお店のBGMにお正月らしさを感じたり。

新しい世界に行くことは、実はなかなか難しいことです。新しい、つまり別の世界に行くことは、困難が付きまといまいます。機会も必要ですし、準備も必要です。例えば外国に行くために、旅費や休暇、語学が必要となるように。新しい世界に行くことは、決してたやすいことではないでしょう。

しかし、みなさん。世界を新しく感じ取ることは、新しい世界に出かけることより困難ではありません。いままでの世界が、新しく感じられる、そんな経験を私たちはしています。お正月やクリスマス、新年度、新学期、色々な行事や季節の移ろいに、私たちは世界を新しく感じ取り、発見し、味わうことができます。

このお正月にそうした新しさを感じ取れた人は、どうかその感動を忘れないでください。そして折に触れては思い返し、単調で同じことが続くと感じがちな毎日を、日々を新しくとらえなおす機会にしてください。それは、あなたの成長につながるものです。

3年生の皆さんは、あと3か月足らずで多摩永山中学校を卒業され、本当に学びと成長の新天地へと旅立ちますね。その時も、どうか最初に思い描いた希望や、感動や喜びを大事に胸にしまっておいてください。そして時には、それらを思い返して、気持ちを新たにしてください。気持ちが新たになれば、世界もまた、新たになります。

そして1、2年生の皆さんは、初めて多摩永山中学校の正門をくぐり、教室に入った時のことを思い出してみるのもよいでしょう。新しいこと、新しいものの始まりは、自分がその気になれば、お正月飾りが取れた後でも、変わらないような毎日の中でも、いつでも、迎えられるものなのですから。

さあ、皆さん。あなたにとって、みんなにとって、よい1年にいたしましょうね！

昨秋、学校経営方針を改訂いたしました。ホームページのほかここに掲載いたしますので、ご質問やご意見がございましたら、学校までお寄せいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

校長 佐藤 信雄

令和5年10月11日

令和5年度多摩市立多摩永山中学校 学校経営方針 (改定版)

多摩市立多摩永山中学校
校長 佐藤 信雄

1 教育目標

自らを律し、自分の生き方を創造することのできる、人間性豊かな生徒の育成を目指す。

- ・よく考え、知性を磨く生徒
- ・協力し合い、思いやりのある生徒
- ・健康で心身を鍛え合う生徒
- ・自ら実践し、創造する生徒

2 学校教育を通して追究する理念

(1) 自他の幸福の追求

ア 文化の継承と発展

学校の教科学習を始め、あらゆる教育活動を通して、人類の紡いできた文化を継承し、発展させよう人間としての基本を育む。

イ 人権の尊重

あらゆる差別を克服し、人間の意志、感情、存在、多様性を尊重し合い思いやる人間としての基本を育む。

ウ 平和の希求

暴力による解決を否定し、人間存在を尊重して社会の平和に参画できる人間としての基本を育む。

エ ケアによる寄添い、向き合い

苦しみ、困難を抱え、弱い立場にいる存在への配慮、支援といったケアの精神を大切にして、相手に寄添い、向き合う態度を学校に息づかせていく。

(2) 方法論の追求

ア 「7つの習慣」

導入4年目を迎え、多摩永山中学校全体に「7つの習慣」の学びをいっそう浸透させ、本校の生徒の主体性 (Leader in me) を高め、成長を促進する。7つの習慣の観点で教育課程を俯瞰し、教科横断的な取り組み、道徳や総合、学校行事、生徒会活動、学級活動等と7つの習慣を関連付け、教職員も生徒も意識的に取り組む。

① インサイド・アウト (内面を変えた後に外の世界・環境を変える)

まず自身が変えること。そののちに環境や他者が変わっていく。

① 第1の習慣「主体的である」

- ・生徒に、存在としての、また行動主体としての「自己」を意識させる。
- ・やらされている感から、「自らで」への転換。
- ・自ら、自他の幸福を追求する態度を養う。

② 第2の習慣「ゴールを思い浮かべることから始める」

最後のイメージ (ゴール) を想定し、それに近づき、実現するための方法を検討し、取り組みを始めるスキルを身に付ける。

③ 第3の習慣「最優先事項を優先させる」

取り組みに優先順位をつけ、ゴールへの到達のために最重要なものから取り組む。

④ 第4の習慣「Win-Win (双方の利益の関係) を考える」

お互いに有益となる、Win-Winの状態を想定して、合意形成を図る。

⑤ 第5の習慣「まず理解し、そして理解される」

まず傾聴等で相手理解に努め、その次の段階で、自分を相手に理解してもらうよう努める。

⑥ 第6の習慣「シナジー (Synergy 相乗効果) を創り出す」

単に自分の意見を通す、相手の意見に折れるのではなく、相乗効果のある第三案を考える。

⑦ 第7の習慣「磨く」

人のもつ4つの資源 (肉体、精神、知性、情緒) を維持、再生 (更新) することに努める。

⑧ 再度のインサイド・アウト (自己の完成はなく、変容に終わりはなく)

良いことは残し、悪いことは改めて、次世代につないでいく。

イ ESD (持続可能な開発=次世代と現世代のニーズを共に満たす、ための教育) と、SDGs (持続可能な方初のための目標・基準) の視点

ESD、SDGsの観点によるカリキュラム・マネジメントにより、人類社会とその文化、平和の存続と発展の在り方について考え貢献できる資質をもつ生徒を育む。ESD、SDGsの観点で教育課程を俯瞰し、教科横断的な関連付けによる意味づけ、道徳や総合的な学習の時間、学校行事、生徒会活動、学級活動への意味づけを行い、その都度生徒と教職員が共に確認し、意識していく。

3 目指す生徒像

- (1) 主体性 (Leader in me、Agency) を発揮する生徒。自ら学び、文化を感受しその発展に寄与し、人権尊重と平和の継続に身近なところから参画できる生徒。(主体性、文化、平和)
- (2) 誰とでも分け隔てなく協働でき、多様性を尊重する、思いやりのある生徒。(平和、人権)
- (3) しなやかで心身の回復力のある生徒。(健康)

4 目指す教師像

- (1) 教育公務員としての使命を果たし、組織として協働できる教師。
- (2) 生徒一人一人を時に温かく、時に厳しく見つめ、その良さを伸ばそうとする教師。
- (3) 生徒と向き合い、ケアの心をもって寄添い、共感できる教師。
- (4) 研鑽に励み、学び続ける教師。
- (5) ライフワークバランスを大切に、自らの人生を豊かにしようとする教師。

5 目指す学校像

- (1) 生徒が大切にされ、夢や希望を抱き、生き生きと安心して学習、生活できる学校。



- (2) 生徒が好奇心や意欲を喚起され、自ら考え、学び、活動する学校。
- (3) 教員が連携し助け合い、学び合う学校。
- (4) 生徒、保護者・地域、行政が信頼する学校。
- (5) 生徒と教職員のライフワークバランス、QOL (Quality of Life 生活の質) を大切にする学校。

6 主な課題と取り組み方針

(1) 不登校対応

- ア 学力、人間関係、特別なニーズ、家庭環境など多様な観点からの不登校理解と個別の支援。
- イ 当該生徒、保護者・家庭と学校とのつながりを絶たずに保ち続ける。
- ウ 令和6年度からの別室登校による居場所、心の安全基地、緊急避難場所の拡充。
- エ ピアティーチャーを活用した学習補助と生徒の学力向上による、自信と自己肯定感の育成、回復。



(2) すべての人権の尊重 (含む「いじめ」対策)

- ア 『人権尊重プログラム』をガイドラインとして用いた人権教育の推進。
- イ 多摩市、保健室と連携した、LGBTQ+、SOGIEの啓発、適切な理解と対応の推進。
- ウ いじめ対策基本方針、いじめ対策委員会による臨機応変、早期の対応。
- エ 「命の安全教育」、性に関する指導での、相互の関係性と相手の存在を尊重する心と行動の育成。

(3) 文化継承、平和希求への参画

- ア 多摩市立中央図書館や多摩市役所平和・人権課、恵泉女学園大学平和紙芝居研究会 (KPKA) 等と連携した、生徒による平和の語り部活動等の、文化と平和に主体的に参画する取組の推進。
- イ 道徳教育や体験活動、読書活動や鑑賞活動等を通じた、文化や平和の基礎となる、豊かな感受性、創造性の涵養。

(4) 学力増進と授業改善

- ア 授業の方法としての、冒頭の「見通し (本時の学習目標、めあて) の明示と、終盤の「学習内容の振り返り」により、意欲と興味を高め、学習内容を定着させる AAC サイクルの全校的推進。
- イ ICT とアナログの双方の長所を活用した授業の実施。
- ウ 学校司書と連携した学校図書館の多様で有効な活用と、図書委員会の主体的で多様な活動の促進。
- エ 年間指導計画 (シラバス) とアカウンタビリティによる、ねらい、取組み、評価の可視化、生徒・保護者の理解の促進。

(5) 社会性の育成

- ア 各種行事による体験的な集団活動の促進。
- イ 日常の学年、学級、班活動、部活動等の集団活動の意識的な運営。
- ウ 生徒会を中心とした、生徒の組織的主体的な自治活動の推進。(例 校則見直し等)
- エ 全教員による教育相談的な共感的支持的対応の推進と、SC、SSW等地域人材や関係諸機関との密な連携。
- オ 小・中学校で一貫した基本的生活習慣を育てる指導を行い、中学校でその確立と定着を図る。

(6) 保健、安全の取り組み

- ア 養護教諭、保健室、学校保健委員会による各種の保健行事企画の実施。
- イ 人権教育と関連させた、「命の安全教育」の推進。
- ウ 熱中症予防、感染症予防の取り組みの推進
- エ 自殺予防教室 (SOSの出し方教室) の例年開催。
- オ 食物アレルギー等に適切に対応した、安心安全な給食の実施。
- カ 引き取り訓練を含む、防災・避難訓練の拡充。



(7) 特別支援教育の拡充

- ア 個々の特性に応じた支援による、また教材教具の活用や有効な指導実践による、特別支援教室の充実。
- イ 特別支援教室と通常学級の密な連携による、生徒支援の充実。
- ウ 巡回心理士などの各種外部人材、諸機関等との連携による支援の増進。

(8) 学校組織の構築

- ア 教職員が人権感覚を磨き、適切な言葉と指導、対応、接遇を徹底した、信頼される学校
- イ 教育環境の整備。(整理整頓・教室環境・校内掲示・校内美化・校外美化)
- ウ 日常的な決まり事的な職務 (ルーチンワーク) の質の向上と服務事故の防止。(凡事徹底、高度な平凡性の実現)
- エ 教員間、学年間、分掌間、困職種間つまり学校全体の共働による、ライフワークバランスの改善。

(9) メディア、ツールの活用能力と発表力の育成

- ア ICT とアナログのそれぞれの長所を活用した授業の実践。
- イ 振り返り学習での生徒による発表の機会の拡充と全校での評価。
- ウ 日常オンライン授業による、不登校生徒の学習の機保障。



(10) キャリア教育・進路指導の充実

- ア 中学校3年間を見通した学年ごとの指導計画に基づいた指導の実施。
- イ 職場調べ・職場訪問・職場体験を段階的に行い、また学校の学習活動が将来の自身の目標達成のために必要な活動であることを実感を伴い理解させる。
- ウ 上級学校調べで中学校卒業後の進路選択の種類を調べ、自分に適した学校、目指したい学校を探し出し、日々の学習・活動へと結びつけ、継続したキャリアへの取組の契機とする。
- エ 保護者・生徒に対する進路情報発信の工夫。(説明会、たより、面談等)
- オ 地域活動への参加、ボランティア活動参加等、地域行事への参加の推奨と評価。



(11) 部活動の方向性

- ア 生徒の自主性、主体性に基づく活動を重視する。
- イ 他の学校活動と同様、人権と多様性の尊重、安全確保の推進を重視する。
- ウ 生徒と教職員の減少を迎える中で、よりよい部活動の在り方を検討する。

(12) 教育の効率性を高める予算、事務、施設関係の管理

- ア ムリ、ムラ、ムダのない予算執行計画を立て、適切に執行する。また、計画の策定に当たっては、教育課程の実現に関する予算を重視する。

- イ 備品購入・管理を厳格にする。
- ウ 適切な会計処理のため、事前に事務室と十分な協議を行う。
- エ 校舎及び付属の設備は常に使用できるようにする。(鍵の管理、元の位置に戻す習慣)
- オ 危機を予測しつつ、破損個所の早期発見と速やかな修繕を徹底する。(発見、連絡報告、相談、修復)
- カ ごみの分別、減量を進める。(シュレッダーゴミ、流し場の環境保持、反故紙のリサイクル等)
- キ 光熱費削減に取り組む。最終退勤者による校舎内の確認。(窓閉め・電気・施錠などの徹底)

図書館へ行こう！ Xmasイベント

12月19日(火)に、3年生図書委員と友情出演してくれたお友達による、大型絵本の読み聞かせ会が開かれました。作品は『はらぺこおおかみとぶたのまち』です。3年生らしく、緊張の中にも味わいのある上演でした。演者や観客として参加してくれた3年生の皆さんは、受験の緊張から少しリラックスできたのではなかったでしょうか。ありがとうございました。

そして21日(木)には、図書館にKPKAの方がおいでになり、クリスマスイベントとして紙芝居を上演しました。クリスマスソングでレイチェルさんとさくらさんが生徒をお迎えし、さくらさんが『おおきく おおきく おおきくなあれ』等を上演してくれました。最後は校長先生がサンタさんの衣装で『よいしょ よいしょ』を上演しました。

たくさんの生徒の皆さんで大盛況の、大変嬉しいひと時でした。



3年生の熱演です



さくらさんは笑顔!



さくらさんと校長先生

多摩市と学校からのお知らせ

敬称略

令和5年度第3回多摩市社会を明るくする運動作文コンテスト

応募総数713作品の中から、本校の生徒の皆さんの力作が選ばれました。おめでとうございます!

- ◆保護司会分区長賞 大藺 漣(2年) 平 小湖(2年)
- ◆更生保護女性会区分長賞 板橋 千尋(2年) 金澤 穂乃花(2年) 福島 幸(2年)

国際理解教育を実施しました

第1学年では、12月15日(金)6校時、国際理解を深める活動を行いました。多摩市国際交流センターから3名の講師の方(モロッコ、エジプト、インドの方々)をお招きし、交流することで異文化への興味・関心を深められました。質疑応答も盛んでした。

事前学習をしっかり積んでいたため、生徒の皆さんは主体的に参加できました。おいでいただいた講師の皆様、素敵な学びの機会をありがとうございました。



ヴァンダナさんの解説は地球規模



モナさんはピラミッドを紹介します

躍進する部活動 それ行け!たまなが中生!【敬称略】

○男子バスケットボール部

- ◆73地区中学校新人バスケットボール大会 第4位 12月17日(日)

○女子バスケットボール部

- ◆多摩市市民大会 優勝
- ◆中大杯 第3位
- ◆73地区中学校新人バスケットボール大会 第4位 12月17日(日)

※ 惜しいことに、男女共にあと少しで都大会進出を逃してしまいました。さあ、捲土重来!

○野球部

- ◆親善野球大会 1位 12月16日(土) おめでとうございます!
- 大会MVP(最優秀選手賞) 岩下 颯羽志(2年) 優秀選手賞 三浦 柚奈(2年)

○バドミントン部

- ◆日南地区バドミントン冬季大会 12月17日(日)
- ダブルス2位 田仲 柚葵(2年)・田中 梨沙(2年) ペア おめでとうございます!

